

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

|  |                 |  |              |                      |  |            |  |                       |    |
|--|-----------------|--|--------------|----------------------|--|------------|--|-----------------------|----|
| 事業番号   |                 | 10 02 01   | 中期総合計画主要施策番号 |                      | 2-04   | 担当課        | 部・課  | 林務部 信州の木振興課           |    |
| 事業名  |                 | 林業大学校費   |              |                      |  |            | 内線   | 3241                  |    |
|  |                 |  |              |                      |  |            | E-mail   | ringyo@pref.nagano.jp |    |
| 事業の概要等   | 事業の目的           | 林業の専門的知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす地域林業の担い手を養成し、林業、木材産業の振興、ひいては本県の森林づくりの推進を図る。  |              |                      |  |            |  |                       |    |
|  | 事業の必要性          | [現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)]<br>林業の担い手については、高齢化が進行し、若年層の就業や定着が課題となっている。また、成熟期を迎えた森林資源を有効に活用するため、機械化林業の推進は喫緊の課題であり、高性能林業機械等を有効に活用できるオペレーターの養成が求められている。<br>[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)]<br>林業の専門的知識・技術、あるいは高性能林業機械等の操作技術を身に付ける場所、機会が限定的である。<br>[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)]<br>林業の専門的知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす林業技術者、林業後継者、あるいは機械化林業の現場で即戦力となる有能な人材を養成する必要がある。 |              |                      |  |            |  |                       |    |
|  |                 | 事業内容<br>高校卒業程度の学生を対象として、一般教育科目(32単位)および専門科目(79.5単位)のカリキュラムにより専門的な知識・技術を体系的に修得させる。<br>< 総定員40人(1学年の入学定員20人)、就業年限2年、全寮制による全人教育を実施 >  |              |                      |  |            |  |                       |    |
|  |                 | 実施期間   | S54 ~        |                      | 根拠法令等  | 長野県林業大学校条例 |  |                       |    |
|  | 成果と達成状況         | 事業の目指す成果   |              | 達成度(期待どおり)の判定基準(H20) |  |            | 達成状況   |                       | 評価 |
| 林業の専門的知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす林業技術者、林業後継者、あるいは機械化林業の現場で即戦力となる有能な人材を養成する。 |                 | ・県内の、森林・林業の現場を担う優れた人材を育成する。<br>・入学者定員を充足する。  |              |                      | ・卒業生の8割が、県内の森林・林業関連の仕事に就業し、各業界で高く評価されている。<br>・入学者定員(20名)を満たした。 |            | a.期待以上<br>b.期待どおり<br>c.やや下回る<br>d.期待以下   |                       |    |
| 事業コスト  | 区 分             |  | 単位           | 19年度                 | 20年度   | 21年度(当初)   | 20年度の概要  |                       |    |
|  | 最終予算額 (A)       |  | 千円           | 33,530               | 31,129   | 30,764     | 国庫・県単 県単   |                       |    |
|  | 決 算 額 (B)       |  | 千円           | 32,273               | 30,427   |            | 実施方法 直接・委託   |                       |    |
|  | B(H21はA)のうち一般財源 |  | 千円           | 28,775               | 25,893   | 25,411     | 歳出節別内訳等 報酬:4,177 賃金:2,251 旅費:2,873 備品購入費:445 需用費:5,837 役務費:1,174 委託料:4,438 使用料:8,267 (単位:千円) 報償費:552 ほか                        |                       |    |
|  | 概算人件費           |  | 人            | 9.00                 | 9.00   | 9.00       |  |                       |    |
| 事業実績   | 内 容             |  | 単位           | 19年度                 | 20年度   | 21年度(予定)   | 左記以外の20年度の実績   |                       |    |
|  | 在校生数            |  | 人            | 31                   | 39   | 39         | 卒業生の就職状況   |                       |    |
|  | (志願者数)入学者数      |  | 人            | (20)20               | (21)20   | (22)20     | ・公務員 4人<br>・森林組合 7人<br>・民間企業等 8人(内 5人森林・林業関連)  |                       |    |
|  | 卒業生数            |  | 人            | 10                   | 19   | 19         |  |                       |    |
| 事業の課題  | 区 分             |  | 判 定 ・ 説 明    |                      |  |            |  |                       |    |
|  | 事業のニーズの変化       |  | 増加           | 横ばい                  | 減少   | 判定の説明      | ・林業科を有する県内高等学校が1校のみとなり、公的な森林・林業教育の場に対するニーズは依然として確実に存在する。<br>・林業事業体等での研修や、他県の林業関連学校との交流をカリキュラムに取り入れるなど、より有効性、効率性を高める取り組みを行っている。 |                       |    |
|  | 県の関与を見直す余地      |  | 余地なし         | 当面余地なし               | 余地あり   |            |  |                       |    |
|  | 有効性を高める余地       |  | 余地なし         | 当面余地なし               | 余地あり   |            |  |                       |    |
|  | 効率性を高める余地       |  | 余地なし         | 当面余地なし               | 余地あり   |            |  |                       |    |
| 課題の総括  |                 | 森林・林業の担い手を確保するため、今後とも、林業大学校での教育を行い、森林・林業の広範な知識を有する林業技術者・林業後継者となる有能な人材を育成することは必要である。<br>また、先進的技術である高性能林業機械の実習などの実技実習を強化するなど、林業大学校生のスキルアップや他県の林業関連学校との交流促進を継続して取り組む必要がある。  |              |                      |  |            |  |                       |    |